

ピアノ科【R3】

R3では、聴音課題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。

◎次の弦楽四重奏の楽譜を見て、問いに教えてください。

Allegro molto

この曲は二短調です。曲中の(11)に囲まれた部分にあてはまる和音記号を①～④より選び、番号で教えてください。
転回形は考えないものとします。また、転調している場合は、その調における和音記号を答えること

- ① I7 ② II7 ③ IV7 ④ V7

正解：④ V7

まず、この(11)の部分は何調であるかを考えてみましょう。この曲は二短調で始まりますが、15小節目からは、属調であるイ短調に転調していることに注意しましょう。(11)の和音は、問題に記されているとおり、その部分の調性であるイ短調の中で考えなくてはなりません。和音の構成音はE、G#、B、D音となっており、イ短調のドミナントすなわちV7になります。

◎次の文章の□にあてはまる言葉を①～④より選び、番号で教えてください。

□は1952年に結成され、ビブラフォンやピアノを中心とした編成で知られるバンドである。

- ①ベニー・グッドマン楽団 ②デューク・エリントン楽団
③ザ・オリジナル・ディキシランド・ジャズ・バンド ④モダン・ジャズ・カルテット

正解：④モダン・ジャズ・カルテット

①ベニー・グッドマン楽団と、②デューク・エリントン楽団は、1920～30年代に活躍を始めた「スウィング・ジャズ」の代表的ビッグ・バンドであり、また③ザ・オリジナル・ディキシランド・ジャズ・バンドは、20世紀初頭のジャズ創成期に存在したバンドです。④モダン・ジャズ・カルテットは、MJQという通称でも知られ、ビブラフォン、ピアノ、ベース、ドラムスの4人から成る、名前のおと「モダン・ジャズ」を代表するグループです。①②と③、④ではそれぞれスタイルや編成も異なります。ジャズの著名な楽団、グループを問う設問は出題率が高いので、有名どころは押さえておきましょう。

■ ■ ■ ■ ■ ピアノ科【R2】 ■ ■ ■ ■ ■

R2では、聴音課題、筆記課題ともにほとんどが記述形式の問題となります。また、さまざまなジャンルの音楽の楽器編成、様式などがさらに広範囲から出題されます。

◎次の和声記号を実際の音符に書き記してください。ただし、大譜表の下の段にベース、上の段に3つの音を密集配置で書くこと。

es-moll \mathcal{X}_9^1

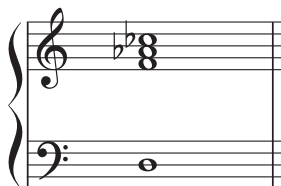
まず、このes-moll(変ホ短調)のV(属九の和音)の基本形は図1のようになります。

そして、この設問におけるVの斜線(/)は、根音(ここではB \flat 音)を省略することを意味します。また、右上に付いている“1”という数字は、第一転回形であることを意味します。したがって、正解は図2のようになります(ただし、上の段は、F音、A \flat 音、C \flat 音の3つの音から成っていれば、和音配列が異なっても正解となります)。

図1



図2



◎下の文は、「フーガ」についての説明文です。文中の〔36〕～〔38〕にあてはまる言葉を埋め、文を完成させてください。

原則として主唱(主題)、〔36〕、対唱(対主題)の3つの旋律的要素があり、これらが対位的技法によって規律的な模倣反復を繰り返しつつ、特定の調的規則によって展開される楽曲形式である。主に〔37〕時代に発展した形式だが、その後の時代においてもフーガの書法が用いられた作品はあり、〔38〕作曲の弦楽四重奏曲のための「大フーガ」変ロ長調 作品133は特に著名である。

正解：(36) 答唱(応唱) (37) バロック (38) ベートーヴェン

フーガは、基本的には「問いかけ」にあたる主唱(主題)、それに対する「応答」にあたる答唱(応唱)が提示され、そしてそれらが曲の中で何度か繰り返される、という様式の音楽です。J.S.バッハの「平均律クラヴィア曲集」になじみのある人が多いと思うので、(37)は多くの人が理解しているでしょう。(38)のベートーヴェンは、生涯の後期にフーガ、および変奏曲の作曲に傾倒しており、フーガ的書法による作品を設問の弦楽四重奏曲のほかにもいくつか遺しています。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科【R5】 ■ ■ ■ ■ ■

R5では、音楽の一般知識を問う問題や楽典の基礎的な問題に加え、ミュージック・アトリエの機能や、基本的なコードネームに関する問題などが選択式で出題されます。

◎次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えてください。

ミュージック・アトリエでは、下鍵盤のみスプリット機能を使うことができる。

正解：○

鍵盤をいくつかの領域に分けて、それぞれの領域で異なった音色を割り当てる機能のことを「スプリット」といいます。ミュージック・アトリエの下鍵盤は、ソロ・ボイスやペダル・ベース・ボイス、パーカッションなど、最大4パートに分けることが可能です。オルガン講師として活動していくためにも、日頃からミュージック・アトリエに触れ、さまざまな機能を使いながら演奏経験を積んでおきましょう。

◎次の楽譜の部分に最適と思われるコードを選択肢より選び、番号で答えてください。

8 beat



- 設問31. ① F6 ② G6 ③ B \flat 6
 設問32. ① G \sharp dim7 ② B \flat dim7 ③ Cdim7
 設問33. ① A \flat 7 ② C \sharp 7 ③ B7
 設問34. ① A7 ② A \flat 7 ③ F7
 設問35. ① Gsus4 ② D7 ③ Aaug7

正解：(31) ② G6 (32) ① G \sharp dim7 (33) ③ B7 (34) ② A \flat 7 (35) ② D7

(32)と(33)の正答率が低かったため、この2題について解説します。(31)がG6であると考え、(32)はG6とAm7をつなぐコードとなりますが、選択肢の中では、Amに到達するドミナント的な機能を持ち、ルートが半音進行となるG \sharp dim7が最も適切と考えられます。(33)も同様に、Em7に到達するためのドミナントであるB7がもっとも適切と考えられます。コード付けの問題では、メロディーがコードの構成音を含むかどうか大きな手がかりですが、それだけでなく、コード進行の前後関係も考えて解いていきましょう。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科【R4】 ■ ■ ■ ■ ■

R4では、より専門的な知識を問う内容となります。ここでは旋律聴取と、音楽の一般知識に関する問題について解説します。

◎旋律聴取

これから演奏する音と、次の楽譜とをくらべ、各小節内のすべての音が正しいものには○を、1音でも異なっているものには×を記入してください。(2回演奏)



正解：①○ ②× ③○ ④× ⑤× ⑥× ⑦× ⑧○

会場に流れた音(演奏の内容)は、以下のとおりです。



④の小節におけるB♯音、⑥の小節におけるF♯音など、臨時記号の付いた音を正しく聴き取ることができなかったことによる誤った解答が多く見受けられました。旋律聴取では、このような臨時記号(すなわち、本来の音階外の音)や、リズムの違いを的確に聴き分けることが必要になります。

◎次の文章の□にあてはまる言葉を①～③より選び、番号で答えてください。

□はデューク・エリントンが作曲した名曲である。

①ナウズ・ザ・タイム ②サテン・ドール ③イツ・オンリー・ア・ペーパームーン 正解：②サテン・ドール

②「サテン・ドール」は、「A列車で行こう」「キャラバン」などとともに、デューク・エリントンの代表作として知られており、オスカー・ピーターソンやセロニアス・モンクをはじめ、さまざまなプレーヤーもこの曲の録音を残しています。ちなみに①「ナウズ・ザ・タイム」はチャーリー・パーカーの作曲、③「イツ・オンリー・ア・ペーパームーン」は、第二次世界大戦前にアメリカで流行した歌で、作曲者はハロルド・アーレンです。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科【R3】 ■ ■ ■ ■ ■

聴音課題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。ここでは、ミュージック・アトリエの機能に関する問題、およびコードネームに関する問題について解説します。

◎オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えてください。

ミュージック・アトリエでは、左フット・スイッチでレジスト・シフトをすることが可能である。

正解：○

フット・スイッチにはL/Rそれぞれにさまざまな機能を割り当てるのが可能です。例えば、「Registration Shift」の設定を「LEFT」にすると、左フット・スイッチはレジストレーションの切り替え専用スイッチとなります。なお、左フット・スイッチに割り当てられたそのほかの機能は無効となりますので、あわせて覚えておきましょう。

◎次のコードの中で、←で示された音がコードのどの構成音になっているかをそれぞれ①～④より選び、番号で答えてください。



- ① 3rd
- ② ♭7th
- ③ ♭9th
- ④ ♯9th

正解：④ ♯9th

テンションを含むコードの中で、指定された音がコードの第何音となっているかを答える問題です。

まず、コードの基本の構成音として、ルート、3rd、5th、(7th)が挙げられます。これらの音はときとして省略される場合がありますが、コードの響きを決定づけるものです。したがって、まずはこれらの音を拾い出してコードネームを導き出し、それ以外の音はテンション・ノートと考えてみましょう。

ここでは、C音、E♯音、B♭音を切り出すことで、C7というコードが成立します。したがって、←で示されたE♭音はテンション・ノートということになります。そしてこのE♭音はルートから見て増9度のテンション、すなわち④の♯9thとなります。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科【R2】 ■ ■ ■ ■ ■

ピアノ科R2と同様に、オーケストラ譜の読み取りが新たに加わり、また、記述形式の問題が全体のおよそ半分近くを占めるようになります。

◎次の楽譜を見て、問いに教えてください。

Moderato

The score is in 3/4 time, key of B-flat major. It consists of two systems of music. The first system has measures 24-26. The second system has measures 27-33. The right hand plays a melody, and the left hand plays a bass line. There are empty boxes in the left hand for measures 29, 30, 31, 32, and 33, where the student is to write the chord notation. Above the staff, chord names are provided for measures 24-26 and 27-33.

Chord names above the staff:

- Measure 24: (24)
- Measure 25: (25)
- Measure 26: Gm7, G#dim7, Am7, A7(b13), Bbmaj7, (26)
- Measure 27: (27), A
- Measure 28: C#m7(b5), F#7(b9), Bm7, (28), Eb7(9)
- Measure 29: (29)
- Measure 30: (30)
- Measure 31: (31)
- Measure 32: (32)
- Measure 33: (33)

コード・ネームに従って、〔(29)〕～〔(33)〕の空欄に音符を書き入れてください。前後の関係も考慮して、ポジションや省略する構成音も工夫すること(二分音符、または全音符で記入)とします。

〈解答例〉

Moderato

The score is identical to the one above, but the empty boxes in the left hand are now filled with chord notation. The chord names above the staff are: Fmaj7(9), F#dim7, Gm7, G#dim7, Am7, A7(b13), Bbmaj7, E7(b9), A(add9), A, C#m7(b5), F#7(b9), Bm7, Bbm7(11), Eb7(9).

Chord names above the staff:

- Measure 24: Fmaj7(9)
- Measure 25: F#dim7
- Measure 26: Gm7, G#dim7, Am7, A7(b13), Bbmaj7, E7(b9)
- Measure 27: A(add9), A
- Measure 28: C#m7(b5), F#7(b9), Bm7, Bbm7(11), Eb7(9)
- Measure 29: (filled with notes)
- Measure 30: (filled with notes)
- Measure 31: (filled with notes)
- Measure 32: (filled with notes)
- Measure 33: (filled with notes)

(31)をとり上げて説明します。コードC#m7(b5)の構成音はC#、E、G、B音ですが、ベースにC#音が、メロディーにE音が置かれています。したがって、C#m7(b5)としての和音構成を満たすには、残りのG音、B音が左手パートに含まれることが必要になります。また、コードのボイスング(配置)は、なるべく前後の和音との間で極端にポジションが飛ばないように、さらにもし前後の和音と共通する音がある場合(例えば、このC#m7(b5)とその後のF#7(b9)に共通するE音、G音)、なるべくその共通音をつないで弾けるような配置にすると、和音同士の連結がスムーズになります。